

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100787
法人名	医療法人社団 萩野医院
事業所名	グループホームやまだ
所在地	富山県富山市山田沼又88
自己評価作成日	令和5年7月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は法人母体である萩野医院と24時間の医療連携をとっており、訪問診療や緊急時の往診が受けられるため、身体機能の低下や認知症の重度化が進んでも安心して過ごせるようにしています。加えて、本人、家族の希望に応じて看取りを行っており、その人らしく過ごしていただけるよう萩野医院を中心とした多職種連携の体制を整えています。今年は「笑顔・気配り・優しい言葉」を事業所目標とし、利用者一人一人に笑顔で優しく接し、気配りに努めたサービスを行っています。そして、ご家族とも良好な関係を築けるよう丁寧な対応を行い、信頼関係を築くよう努めます。当事業所は山田の自然豊かな穏やかな環境の中にあり、開放感のある窓からは季節の花や四季を感じられる景色をいつでも眺められることができ、施設内は利用者さんの活動写真等を掲示し、楽しく和やかな雰囲気でも賑やかさを演出しています。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の母体が医院であり、24時間の医療連携体制があり医療支援が充実している。本人や家族の希望に応じて、終末期まで慣れ親しんだ生活環境で安心して過ごすことができる。法人の理念を基に毎年職員で話し合い、具体的な行動目標を決め実践に向け取り組んでいる。事業所は富山市山田の自然豊かで穏やかな環境にあり、リビングの大きな窓からは、四季折々の雄大な景色を眺めることができる。また、手入れされた芝生の庭があり開放的な空間の広がりを感じる。野生のカモシカが姿を見えるときもあり、事業所で過ごす利用者の生活を和やかにしてくれる。事業所の前にはパークゴルフ場や、スクールバス、コミュニティーバスの停留場があり、地域の人との交流機会がある。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和5年9月5日	評価結果市町村受理日	令和5年10月31日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに、法人理念「ゆくり、たのしく、和やかに」を基に職員の意見を取り入れた事業所目標を立てました。今年度は「笑顔・気配り・優しい言葉」を毎朝の引継ぎ後、職員で唱和し一日のスタートを切ります。その思いを共有、実践出来るよう努めています。	事業所で毎年度末に次年度の目標をたて、理念の実践へ向けた取り組みをしている。毎年度の目標は年度末に振り返り、達成状況を評価している。また、法人理念・事業所年度目標を事務室及びフロアに掲示し周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年ならば、地元保育園や小学校との交流会やお祭りの見学、避難訓練などで交流を行っていましたが、ここ3年間はコロナ流行に伴い実施することが難しい状況でした。今後は状況変化に伴い徐々に行事化していきます。	自然豊かな山間部の立地のため隣家はないが、スクールバスやコミュニティバスの停留所が事業所の前にあり、子供達と互いに手を振り挨拶を交わしている。目の前にパークゴルフ場もあり、事業所外の地域の人との交流機会がある。	地域との交流がコロナ禍で縮小されていたが、地元地域にある貴重な介護事業所として、保育園、小学校だけでなく、地元地域の多世代交流の場として地域交流が活発に行われることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年行われていた家族交流会に地元住民の方を招いて、施設の案内や、認知症の講演に参加頂いていましたが、コロナ流行に伴い実施できませんでした。今後は状況を見ながら再開し、地域との交流を活性化させて行きます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回運営推進会議を開催し、各施設の実績やサービスの評価を行い、改善計画作成に向けて意見交換を行っています。また各施設の身体拘束適正化のための事例検討も行ない、意見や評価、指導を頂いています。このことについては月1回発刊の「通信」にて利用者様宅へ報告しています。	家族、地域包括支援センター職員、市議会議員、民生委員が出席し、2ヶ月に一度、会議を開催している。事業所からは活動状況、ヒヤリハット、事業所行事、研修報告等を行っている。コロナ禍となり感染対策で行動が制約される中、家族からは面会についての相談があり、感染状況に応じて工夫しながら要望に添えるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	通常であれば2ヶ月に一度富山市からの介護相談員の来訪があり、利用者一人ひとりに寄り添い会話をさせていただきますが、コロナ感染防止のため、直接的な会話やふれあいは行っておらず、管理者との面談を行い、運営相談をしていただきました。	運営推進会議で、市の委託機関である地域包括支援センター職員に事業所の活動状況を伝えている。市が主催する各研修会、エリア毎の地域ケア会議などに参加し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度、身体拘束等適正化のための研修を行ない、委員会へ報告しています。拘束をしない方法等の勉強会、利用者様の行動を妨げない、負担がかからない工夫、言葉がけを皆で考え対応策を講じています。委員会のアドバイスを基に家族との面会を増やすことにより利用者様の不安やストレスの減少になるのではと考え、ご家族にもご協力いただきます。	3ヶ月に一度、事業所内にて身体拘束に関する研修を行い理解を深め、意識の統一を図っている。日頃のケアの場面で言葉で利用者様の行動を妨げないか、職員間で振り返りを行い、利用者にとって、心地よい言葉がけを心掛けるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度、事業所研修の中で虐待について学んでおり、特に職員でスピーチロックについて共有しています。「言葉は心」を常に意識して、事業所目標である「笑顔・気配り・優しい言葉」で接するよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられた利用者様の看取りの際には密に連絡を取り合い最後まで全てのことを円滑に進めて頂きました。また亡くなられたご本人、親族の方々も大変、成年後見人の方を信頼して任せておられ良好な関係を築いていました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご家族様に不安なところはないか確認し、分からないことは遠慮なく聞いてもらうようにしています。また入居のしおりをお渡しし納得して施設での生活を始めていただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には年一回の家族アンケートに協力していただき、ご家族様の思いを訊いています。また、毎月発行している「通信」にて利用者様の生活の様子をお伝えしています。要望があれば改善できるよう改善案を話し合いご家族様の意見を反映できるよう取り組んでいます。	年に1回実施している満足度調査の結果は職員間で共有している。家族には、月に一度、事業所へ来所した際に必ず言葉かけし、要望などを聞いている。コロナ禍では、面会や自宅への外出の相談があり、感染状況を確認しながら、状況に応じ希望を叶えられるよう支援した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスは毎月月末に行われ、ほぼ全職員が参加しています。業務について、利用者様についてなど日々気が付いたことを皆で話し合い、意見をまとめ改善策を立てています。また、利用者様へのサービス低下にならないよう少ない職員で効率良く日々の介護が行えるよう努めています。	会議やカンファレンス以外でも、職員は管理者へ相談や業務の提案がしやすい関係ができています。ケアや業務に関する改善提案は職員間で話し合いを行い反映している。内容によっては管理者から法人へ相談する体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から個々の勤務に取り組む姿勢を観察しています。職員同士、協力していくこと、また利用者様への対応や様々な問題への積極的な改善策を立てようとする姿勢などを考慮し、平等に人事考課をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の質の向上を目指し、年間12回の事業所研修を行い、介護の質の向上に繋がるよう学んでいます。同じ研修テーマにも取り組み、新しい内容の学びや改めて振り返ることにより、新鮮な気持ちで介護に取り組むことが出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所と認知症ケアの事例検討会を行い意見交換を行っています。また「負担軽減のための介助方法」の研修では、外部の理学療法士から身体介助の基本を確認し、介護負担軽減のため適切な介助方法とその根拠を学びました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様は、介護する私たちの表情もよく見ておられるように感じます。相手が不安を感じないように常に目を見て穏やかに話しかけ、安心できる関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ対策の為、ご家族との会話も積極的に行なえませんでした。面会制限が緩和されたためご家族との会話を増やしその中で、ご家族や本人の思い(不安に思うこと、期待したいことなどの要望)を聞き入れ、実行できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の利用者様の状況によって、変化するサービスの内容を見極め、その方に必要なサービスに繋がる支援(体調や疾患の対応など)に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側と区別はありますが、余生を施設で過ごされる利用者様と職員はご家族様以上に今と一緒に過ごしています。人と人との繋がりを大切に、利用者様を大切に思う心で、安心してもらえる関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も面会時などには利用者様の日々の様子をお伝えしたり、体調の変化があったときにはその状況を電話で報告しています。また月に一回発行している通信では施設での日頃の様子の写真や最新のご本人の様子をメッセージでお伝えしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様ができるだけ多くの方とコミュニケーションがとれるよう、対面面会を行うとともに、電話の取次ぎ、手紙と一緒に書くなど家族との絆を大切にしてお手伝いをしています。例えば県外に住む二人の娘さんに暑中見舞いを書き、娘さんから喜びの返信をもらい、それを手にご本人もうれしく思われていました。	利用者が「〇〇したい(行きたい)」など、利用者から聞いた希望を家族へ伝え、思いが叶うよう支援している。例えば「墓参りにいきたい」という希望を家族に伝え、安全に外出できるよう支援した。また、友人や家族との関係が途切れないよう、コロナ禍では電話や、感染対策を徹底した上で面会の機会を確保した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士と一緒にパズルに取り組み協力して仕上げたり、歌を歌いながら一緒に廊下の散歩をするなどの機会があります。孤立しすぎず、お互いを干渉しすぎることなく穏やかなご関係を保てる生活が出来るよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、お手紙にて入居時の写真を送付したりその後のご本人様やご家族様の様子をお尋ねするなどの気配りを行っています。また連絡があれば、お話を聞いたり、相談に乗るなど真摯な対応に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	難聴の方が多いため、比較的聞こえやすい耳側で利用者様の隣に座り、本人が答えやすく、分かりやすい言葉で話すよう努めています。何かをするとき(生活全般で)は、本人の意思を聞いてから行うようにしています。	利用者それぞれに応じてコミュニケーションが取りやすい方法を工夫し、本人の思いを聞き取っている。言葉での思いの表現が難しい方は、職員の間言葉かけへの反応、表情から思いを読み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話をお聞きし、ご家族様にも確認し「本人のこれまで」の生活歴、人生歴を大切にしています。レクリエーションの時間など、昔の思い出話をしてもらい、なつかしさに浸るとともに、私たちもその方のその時の様子を想像し一緒に思いを馳せています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックで体調観察を行います。本人の排泄パターンに合わせたトイレ誘導や移動時の体の動き方、入浴時やオムツ交換時の皮膚の観察、食事時の様子を見てその日の状態を把握しています。またそれを夜勤者や翌日の日勤者に引継ぎしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様は施設内の限られた空間の中で残りの人生の時間を職員と共に過ごされるので、家族や職員からの日々の気づきや様々な情報を、日誌や連絡ノートで共有し職員全員に周知しています。またご家族様の助言ももらい、介護計画を作成しています。	利用者の日頃の生活の様子から気づいたことを、介護日誌等に記録しカンファレンスで話し合っている。モニタリングの結果、更新する施設サービス計画原案を家族に説明し、意見要望を伺い介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者様との会話の中で、思いや、こんなことが出来た、出来なくなったという気づきを大事にし、日誌に記入しています。また個別に工夫して取り組む内容は、連絡ノートに記載し、皆が共通したやり方で出来るよう伝達しています。介護計画、ケアプラン作成時にケアの変更が定着した段階で、見直し変更も行います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の疾患にて、他医療機関への受診が必要となれば、主治医へ連絡・指導をもらい、受診出来るようご家族様に連絡を取り、協力のもと受診し治療を行います。耳鼻科受診された方は、症状が軽減しご本人も快適に過ごされるようになりました。またご家族との外出は気分転換にもなったようです。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接するパークゴルフ場には、婦中、山田、八尾地区からも多くの方が訪れ、散歩に出かけた際には知り合いの方に会うこともあります。知らない人でも「ナイスショット！」と声をかけると、返答があり楽しい交流の場になっています。またコミュニティーバスが施設内を通り、乗っている小中学生に手を振ると、振り返ってくれ子供たちとの楽しい交流の時間になります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である、萩野医院が主治医であり月一回の往診があります。年に一回の健康診断も医院に向き受診しています。また新型コロナウイルスワクチン接種も主治医より安全に受けることが出来ています。GH看護師が口腔ケア研修に参加し、月に一度、利用者様の口腔内チェックも行い、報告し、アドバイスをもらっています。	事業所から毎日バイタル記録(体温・脈拍・血圧)の他、健康に関する気になる変化をかかりつけ医へ報告している。状態に応じて主治医から指示を受けることができる。受診が必要な場合は職員が同行し、適切な医療が受けられる体制をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	萩野医院の看護師へ毎朝バイタル表の送信を行い、体調異常者の有無の確認をしています。体調不良者が出た場合にはすぐ連絡し、医師の指示を受け適切に対応出来る体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族やMSWと連絡を取り合い、必要時、状態確認のため、病院を訪問し、直接本人の状態を確認しています。また、法人内の連携室に相談し、体調の変化に伴う受け入れ先を検討するなど情報の共有化と他施設と連携を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの状態になられた際には、主治医より家族への説明を行い、ご家族様にご本人の終末期のあり方の希望を尋ねます。施設での看取りの理解をしていただき、希望に沿ったケアを実践出来るよう努めています。ご本人の意思を尊重し穏やかに死を迎えられるよう努めています。	看取り指針があり、希望があれば看取りケアを行っている。入居契約時に重度化に対する意向を確認している。また、看取りの状況になった時には、改めて家族の意向を確認し、本人の思い、家族の思いに寄り添った看取りケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の緊急時の対応マニュアルを作成しています。家族への連絡先を明確にしておき、管理者やケアマネ不在時でも落ち着いて確実な対応が行えるようにしています。そのため、緊急連絡網の変更を逐一行い、AED等の取り扱い研修も定期的に行うようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練は年2回、地元消防署と連携して初期消火や避難誘導等、基本的な行動訓練を行っています。自然災害に対しては「防災マニュアル」を策定し、公的避難所への避難を計画しています。また、介護サービスが安定的に保たれるように業務継続計画(BCP)を策定しています。	併設のデイサービスと協同で昼想定火災避難訓練と、グループホームの夜間想定火災避難訓練を行っている。自然災害についてはBCP(業務継続計画)を策定し公的避難先の確認を行っている。ハザードマップには、ポイントとなる場所の写真も添付しており、わかりやすい工夫があった。非常食、水、カセットコンロ等備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年一回、プライバシー保護の研修を行い、日々の様々な場面で利用者様への声掛けに気を付けています。利用者様が嫌な思いにならないよう、また職員による気になる声掛けがあったときには互いに注意をし、気を付けるようにしています。	尊重やプライバシー等の研修を年間を通じて計画し実施している。本年度は「優しい言葉」を目標に、利用者への言葉がけで気になる時は職員間で注意しあい、尊厳あるケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来ない(排泄意を訴えることが出来ないなど)利用者様の仕草や表情の観察を行います。また入浴の際は同性職員が介助するなど、安心して貰えるよう臨機応変に対応しています。利用者様の思いを選択してもらえるような声掛けをするようにもしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝はご自分のペースで起きられ、洗顔後窓から外を見て朝のお参りをされたり、新聞をじっくり読むところからスタートし、日中はレクリエーションや個別リハビリなどする方、ゆっくり居室で過ごされる方、それぞれの生活のペースを見守りながら、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、暖かいタオルを準備し顔を拭き、髪の毛もくしでとき、すっきり整えています。ご家族様には季節に合わせた衣類の準備をして頂き、入浴後にはご利用者様に似合った好みの服を着て頂いています。また手や顔のマッサージをしてリラックスする行事も実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園を得意としていた利用者様にプランターの芋ほりをしてもらい、一緒に皮をむき、塩ゆでしたものを利用者様全員一緒に頂きました。シンプルな熱々のゆでたジャガイモに「うんまいな～」と笑顔が溢れました。また利用者様の誕生日にはデコレーションケーキ、その他季節の行事では、おはぎやフルーツポンチをいただいています。	旬の食材の炊き込みご飯、流しそうめん、黒豆のおこわ、桜もちづくりなど、季節にあった食事を提供し楽しめる機会を作っている。一人ひとりの食事摂取量、食事形態に応じて職員で話し合い食が進むように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合った食事形態、食器(重さや持ちやすさ)、使いやすい道具を使用しています。食事動作が止まってしまう利用者様には声掛けをしながら介助し、自力で食べてもらうようさりげないフォローをします。夏場には水分確保の為、ご家族にも飲み物の差し入れの協力をお願いすることもあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っています。義歯や残歯の有無に合わせたブラシの使用、ウェットティッシュの使用、うがいの仕方に気を付け口腔内の清潔保持に努めています。年一回の「高齢者の口腔ケアと栄養管理」について研修を行い、月一回の看護師による口腔内チェックをしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを日々観察、記録しタイミングを見計らい、トイレ誘導し排尿や排便が気持ちよく自分で出来るよう支援しています。自立している方には過度の干渉を行わないようにし、本人に確認しています。	利用者にタイミングよく声をかけトイレでの排泄がスムーズにできるよう排泄支援を行っている。居室にてポータブルトイレを使用している場合は安全に利用できるよう工夫している。また、匂いにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を観察しています。毎朝の牛乳や水分の提供(一日の目標1200cc)、散歩や排便を促す運動などを行ない、自然な排便を促すよう努めています。下剤の調整を行い、排便を促すこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴1回、シャワー1回の一週間の計画を立てています。シャワー浴の場合は入浴剤を入れ足浴しています。その日の体調を一番に考慮し急な変更にも対応しています。湯舟にゆっくり浸かるのが好きな方、熱めのお湯が好きな方、シャワー浴が好きな方など臨機応変に対応しています。また皮膚の観察を行い、保湿ケアを行っています。	シャワー浴か入浴にするか利用者が選択できる。基本的には週2回(シャワー1回・入浴1回)としているが、夏季の発汗が多い時期、排泄による汚れがあった時は柔軟に対応している。冬季は、ゆず風呂、みかん風呂をすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにはソファが二つあり、日中でもゆったりとくつろげるようになっています。そこでゆったりと過ごした寝られる方もおられます。居室には自宅で使っていた毛布やタオルケットもあり、安心して眠っていただけるようにしています。また室温にも気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルがホールに置いてあり、職員がいつでも確認することが出来ます。ご本人の排便状況を見て下剤の調節もします。服薬時には日付、氏名、時間の読み上げを行いご本人、他職員とトリプルチェックを行い誤薬の防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来ることに挑戦したレクリエーション(達成感を味わってもらう)や個別リハビリに取り組んでいます。様々なレクリエーション道具(手作り品)を活用しています。また工作にも取り組み、季節の壁飾りを作成しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画があります。春には桜やチューリップ見学、初夏にはアジサイ・花菖蒲見学、秋にはコスモス、紅葉見学へのドライブがあります。車中より、地元山田の美しい変わりゆく景色を眺め気分転換の支援をしています。またコロナ緩和で家族と自宅までドライブ、通院などにも出かけ少しつつ家族との外出の機会も増えています。	春の花見の季節から秋の紅葉の季節まで計画的に外出の機会を作っている。 利用者の家に行きたいとの希望には、家族の協力を得て自宅までドライブができるよう支援している。事業所の庭にガーデンテーブルと椅子があり、山間の桜、新緑、紅葉まで四季折々の景色を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域、当施設の特性上、お金を使うところがなく、ご家族様に管理して頂いています。以前は近くの自動販売機まで運動がてら、好きなジュースを買いに行くこともありました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住まいされ、なかなか会えない娘さん(二人)に暑中見舞いを書くお手伝いをしました。両者とも大変喜んでおられました。また母の日や父の日、ご本人の誕生日にはご家族から花束が届きます。ご本人も嬉しく、皆さんで眺め楽しんでいきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の花を飾ったり、掲示したりして季節を感じて頂けるよう工夫しています。廊下には富山の観光地(新作を取り寄せている)、八尾のおわらのポスター、ご家族様に発行している「やまだ通信」を貼っています。ホールから見える景色は季節ごとに変わり、夏には皆で種から植えたグリーンカーテンの朝顔が楽しめます。心地よい音楽を流しリラックスしていただけるよう配慮しています。	1日の中で過ごす時間の長いリビングは、開口の大きなガラス扉となっており、室内からは豊かな自然や、季節ごとに桜・藤・紅葉が見えて、季節の移ろいを楽しめる景観となっている。時にはカモシカが歩く姿も見ることができる。室温は丁度良い温度に調整され、季節の生花が飾られて居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	難聴の方が多いため、他者との会話には職員が間に入り、会話を繋げます。また自主的に廊下で歩行訓練、体操などをしておられる方もおられます。ホールにある二つのソファで、個々にゆったりと過ごされます。新聞を読まれたり、テレビを見たり、眠たくなったらうとうとされるなど思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には自宅から持ち込まれた家具や、ご主人、子供、孫などの写真やファイルがあります。またお祝いにもらったお花も飾ってあります。いつも読む本を枕元に置いておられます。ポータブルトイレがある方もいらっしゃいますが、中身の確認をこまめに行い破棄、洗浄し臭いにも気を付けています。	ベッドからの立ち上がり、移動が安全にできるよう、手すりや配置が工夫されている。利用者の好みに応じた物が持ち込まれ、家族写真などが飾られている。リビング、廊下、居室含めて温度差がなく安心して生活できるよう配慮されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の長い廊下を利用し、富山の観光地(ポスター)、外の桜やハナミズキ、つつじ、あじさい、パークゴルフをしている人たちを眺めながら歩行訓練、手摺りで下肢筋力の低下を防ぐ体操をしています。またテレビ体操にも積極的に取り組み、個々が歩行やトイレ、入浴、食事の際に自分の「出来る」に繋げる支援に努めています。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやまだ

作成日: 令和 5 年 9 月 29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍の影響で、従来まで培われてきた地域との交流が縮小され、利用者さんの生活の変化がなくなり、地域での唯一の介護施設としての役割が周知されていない状況にあり、今まで以上の活動を行うことが課題とされる。	今まで行ってきた事業等を再開し、利用者さんへ生活の楽しみを提供するとともに、より密接な地域住民との交流を行なう。	小学校、保育所の行事、地域内祭礼への参加や、家族交流会や避難訓練等施設内行事へ地域住民を招待する。また、近隣集落内の「蕎麦屋」さん(以前利用者さんの一人がその運営に携わった)の利用を計画したい。	12 ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()